



10月28日
信号待ちなしでスムーズに走る福鉄電車（左、撮影：岸本雅行）と美しいデザインのセンターポール（右、撮影：塚谷康夫）（P6記事参照）。幸橋架け替え工事が「幸い」になるといいですね。

活動報告

- 10月20日 自転車マップ部会
- 21日 第3回ホジロバ交通エコロジー教室
- 29日 ばすでんしゃねっとシステム打合せ
- 31日 福鉄問題を考える勉強会
- 11月 3日 自転車マップ部会・全国路電サミット打合
- 7日 IRE LRT研究会
- 12日 第2回全国路電サミット準備委員会
- 16日 ROBA例会

今後の予定

- 11月23日 モビリティウィーク講演会
- 26日 福井市地域生活交通活性化会議
- 28日 福武線利用促進市民フォーラム
- 未定 自転車マップ部会、全国路電サミット実行委員会
- 12月 2日 福井市まちづくり交歓会
- 12日 IRE LRT研究会
- 14日 ROBA12月例会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

日本型まちづくりへの転換
(副題)ミニ戸建て・細街路の復権
青木仁 学芸出版社2200円+税

ISBN978-4-7615-2408-1 C0052

コンパクトシティーを過去の日本がおこなった都市計画の失敗の修復と考えるか、成功の延長と考えるか。この本は、狭小な区画道路や細分化された土地所有など、日本の市街地開発事業や都市計画が悪しき物として解消しようとしてきた現象を、肯定的に捉え、外科的治療でなく、修復で日本らしい町が作れると解く。ある意味衝撃的で、ある意味勇気づけられる本である。

最近読んだ本では最も興味深く、最後まで一気に読んでしまった。これまで、建築の専門家以外からは雑然とした街の良さは良く語られてきたが、それを、建築の専門家として、防災の観点などあるていど理屈も整えて書かれている。著書で示された「いい個別建て替え」を促進するにはどうしたらいいか。行政側としてはそのつつこみが今後の課題と思えた。

(財)国土技術研究センター調査第3部長 美濃部 雄人 Minobe Yujin

全国路面電車サミット準備委員会始動

来年秋、福井において第9回全国路面電車サミット福井大会（仮称）を開催します。もう1年をきていますが、このほど、全国路面電車サミット準備委員会が始動し、既に2回の準備委員会を開催しています。

第1回の準備委員会は10月5日。ROBAのメンバーに加え、福井県総合政策部総合交通課地域鉄道支援グループ総括主任の島田英夫さんと、福井市都市戦略部交通戦略室主査の中村直幸さんにご参加頂き開催しました。

まず、準備委員会開催の経緯の説明、これまでの開催地におけるサミットの概要の説明、サミットの特徴の説明、報告書や実行委員会の説明のあと、福井における構成団体・実行委員会のあり方やメンバー、サミットのメインのテーマ（まちづくりとする）助成先、県のスタンス、福井市のスタンス等の協議を行いました。その結果、

路面電車という名称を掲げているため、金銭的な支援ができないなど、県の支援体制などに制約が出る。

福井市の来年度予算が少なく、十分な支援ができない。

など、いくつもの問題の存在が判明しました。また、福井商工会議所や企業、大学などとの連携も提案されました。

それらを持ち帰って検討を行い、また、福井商工会議所などとの折衝を行いましたが、福井商工会議所は、スタンスの違いから協力を得られませんでした。

それらの結果を受けて、ROBAでは、大掛かりな大会を目指すのではなく、ROBAが本来得意としている、手作りの大会を目指すべきという合意が形成されていきました。

第2回の準備委員会は11月12日。前回同様、ROBAメンバーと県総合交通課の島田さん、福井市交通政策室の中村さんのご参加を頂き、開催されました。

最初に、各方面との折衝の結果の報告、2008年の10月17・18・19日にAOS S A県民ホールを押さえたこと等の報告があり、ROBAで仮組みした行事案、収支案の説明を行ったあと、協議に入り、島田さん、中村さんから多くの助言を頂きました。

福井市への助成の申請段階において、今の情勢の中で不透明なこと、他の自治体との兼ね合いにおいて微妙と思われる表現を削る。

大会終了後に作成する報告書の見直し

環境セクションへのアプローチ

マスコミとの連携

福井市の関与と協力のあり方

実行委員会の性格

など、多岐にわたる助言を頂きました。

全国路面電車サミット準備委員会はこれで終了。次回からは全国路面電車サミット実行委員会に移行します。今後、えちぜん鉄道や福井鉄道の参加を得、スピードを増して態勢づくりや企画・手配を進めていきます。実り多い福井大会を実現するべく頑張りましょう。

（文・清水）

福井ホジロバ交通エコロジー教室を終了しました

8月から10月にかけて3回シリーズで開催した、賢い交通の使い方や持続可能な交通のあり方を学ぶ、福井ホジロバ交通エコロジー教室が終了しました。中部運輸局が実施する2年目の本教室を企画募集して、(株)サンワコンがROBAと協働で開催する提案をして特定され、開催された教室です。

教室の対象者は、小学5、6年生とその保護者・交通と環境に興味のある一般の方で、主に福井駅前のエコライフプラザ4階会議室で開催されました。

第1回教室 開催日時：8月19日(日)13:00~16:00 参加者数：35名

教室 「交通と環境についてみんなで考えよう」講師：ROBA 林 博

教室 「交通環境家計簿を付けてみよう」1週間の交通機関利用状況を調べ、ホジロバ交通に切り替えた場合のCO₂排出量・経費を比較できるシートの記入方法を覚えた。

教室 「エコレジャー計画を立ててみよう」

教室 「キッズグローブ地球体験会」エコライフプラザ2階

第2回教室 開催日時：9月23日(日)8:30~17:00

参加者数：69名

教室 「エコレジャーを体験しよう」

サイクルトレインコース、マップの達人コース

第1回教室や自宅で考えたエコレジャーを実践し、その楽しさを体感してもらった。



サイクルトレインコース



マップの達人コース

第3回教室 開催日時：10月21日(日)13:00~16:00 参加者数：50名

教室 「第1回エコライフ交通環境家計簿と第2回エコレジャー体験の成果報告」

教室 「車とホジロバすごろく(交通ゲーム)を体験しよう」

社会の中で各人の行動と交通環境の関係を理解することができる交通ゲームを5~6名のグループに分かれて行った。最初は冷静に駒を進めていたが、だんだん熱が入ってきて、みんなは電車や車のカードの出し方を工夫して、勝負に必死にこだわっていた。

教室 「交通と環境からまちづくりを考えよう」

3回の交通エコロジー教室をふりかえて、まちづくりを考えた

コーディネーター：

福井大学 川本義海先生



3回の教室を通じていろんな成果があったが、実験的な要素が多かったこともありまだまだ改善が必要なこともわかった。「交通環境家計簿」は環境にも家計にもやさしい交通を考えるには有効なツールであり、また「交通ゲーム」は車や電車バスなどの交通手段選択の「ジレンマ」を気楽に体験し考えてもらえるツールであることから、改良を重ねて今後ROBAで活用することになった。(文責：林ひ)

全国バスマップサミット 広島大会に参加して

【報告者：松原光也】

開催日 10月13日～14日

13日に広島市西郊を周ったバス巡検では、アストラムライン開通後に住宅団地と都心を結ぶバス路線が最寄駅までの路線に整理されたが、乗換えが不便であるとの要望で都心へ直結する路線に乗った。料金の安さと乗換えなしを選ぶか、時間を選ぶか、住民がどちらを選ぶのかが団地の場所や路線によって異なることを考えさせられた。巡検の出発地となった横川駅では国産バスが初めて可部まで走ったことを記念して、「レトロバス復元の会」の手によって作製されたレトロバスを見学。会の方が熱心に語っておられたように、まちづくりの象徴として大切にされていた。

14日に開かれたワークショップでは、バスマップの作成だけにこだわらず、マップを使ってバス散策するような内容も盛り込んでほしいといったアイデアも出た。また、RACDAの岡さんがバスの待合い環境を改善するために「バス停アダプト事業」を進めていきたいと岡山の事例を報告した。ROBAでも優良バス停を推奨しており、バスマップによるわかりやすい情報提供とともに、お年寄りの方が炎天下や寒い中で立ってバスを待つことのないよう、ベンチや上屋を整備していかねばと思う。

【報告者：内田桂嗣】

私は14日に予定があったために13日だけの参加でした。これまで、岡山 福井 松江 仙台 広島という流れのサミットです。仙台は不参加でしたので今回で4回目となります。

集合は12:40。JRと路面電車とバスが結節している交通拠点の横川駅前に5分遅れで到達。いきなり広島交通のバスに乗り。分けがわからず、「バスの超マップ」を広げる。路線が多く、今走っている場所を探すのにも時間を要す。目的地はサンハイツという団地。そこから第一タクシーが経営するバスに乗り換えてアストラムラインの上安駅のバスターミナルまで。広島市の地形は平野が少なく山が近接しているので、路面電車の沿線以外はバス路線のお世話になることになる。つまりほとんどの住宅地はバス利用可能な世帯となる。「バスの超マップ」をみると15ものバス事業者が運行しており、バス会社の配色だけでも大変だ。使い易いバスマップの必要性がここにある。アジア大会が広島で行なわれたときアストラムラインができたそうだが、バスとの乗継連携は上手くいっていないようだ。

その後、そのアストラムラインとバスそして、グリーンムーバーMAXを乗り継いでJR広島駅まで戻ってきました。私としては、アストラムラインとMAXという初乗り体験ができたことが収穫だった。もちろん、広島のバス事情をほんの少しではあるけれど体験でき、有意義な広島ツアーであった。



全国バスマップサミット 広島大会に参加して part2

【報告者：高橋 八州太郎】

バスマップの進化

岡山市から始まったこのサミットが、単なるバス地図づくりから、まちづくりへのツールへ成長してきた。かつて、RACDA 岡会長から『LRT システムの普及を追及していくと、「バス」に着目せざるを得なくなる』ということを知ったことがあった。まさに、ROBA が提唱している『つないで活かす』ということではないでしょうか。バスマップは、いろいろな地域で、それぞれの団体、個人が「バスマップ」を作成している。そして、先鞭を切った我々がそれらをまとめて、これからバスマップをつくらうとしているところへの情報提供として、バスマップ技術に関する出版をしようとする構想が出てきました。商業ベースに乗るかどうかは微妙なところですが、「バスマップ」に関する出版をしていこうという動きです。

今回のバスマップサミットでの感想

毎回、夜学が盛んですが、今回の夜学は「今更聞けないバス」に関するおもしろい講座がありました。紙面の関係で別な機会に報告しますが、バスの「イロハ」みたいなものでした。バスの種類や高速バスがガラガラでも運行している理由とか、なかなかマニアックな内容でした。(後日詳述)

各地で参加者を対象に「イクスカーション(小旅行)」を企画しますが、既存のバスルートとアストラム(新交通システム)の接点の一つの「上安」駅で乗継を体験。そしてまたバスを乗り継いで市内を散策する企画でした。運営側はバスが遅れた場合の手配も計画しておりましたが、何とか時間内に帰ることができました。翻って福井でのバスとバスの乗継、電車との乗継、また検討されている「路面電車のバス停化」も新しい乗継ターミナルとして考えられますね。そんなことを感じた次第です。

【報告者：林 博】

今回のマップサミットの意義

全国バスマップサミットも、当初の呼びかけ人である自費出版マップ御四家が一巡し、次への展開に向けて大きな転換を示した意義ある大会になったのではないのでしょうか。ここ1,2年、バスマップが公共交通関連研究論文にとりあげられ、学会等において発表されるなど、単なる利用者のための公共交通情報提供にとどまらず、まちづくりのツールとしての役割も担うようになってきている。広島バスマップの運営団体も広島 LRT 研究会が発展解消して広島 BRT 研究会に変わり、また、ワークショップの内容も

- 1「バスマップガイドライン(技術編)に盛り込む内容とルールを考える」
- 2「全国のバスマップの取り組みを出版物にしよう！」
- 3「バス停の役割をみなおし、バス停アダプト事業『道の駅・バス停』をすすめよう！」

と、これまでの総括的で、次への展開を示唆するような内容であった。



広島マップサミット番外編

大学時代の友人宅に前泊して、何度も来たはずの広島の交通体系を初めてじっくりと眺めることができました。

広島駅、横川駅での駅前広場乗り入れ、対する西広島駅(己斐)の乗継案内の悪さ、宇品港や広島バスセンター、グリーンムーバーMAXにも乗りました。お昼は SOGO の4F から紙屋町交差点を大名町交差点にダブらせながらのんびりとコーヒーランチタイム、定点観測も歩き回らなくて疲れなくてじっくり見られていいものですね。



10月28日 幸橋架け替え工事完了

(文・写真 塚谷 康夫)

約6年間の幸橋の架け替え工事のため、仮橋での通行を余儀なくされていた福井鉄道でしたが、このほど新橋完全開通の運びとなり、そのための工事が27日夜から28日未明にかけて行われました。

27日午後9時頃切り替え工事が始まり、工事関係者や鉄道ファンらが見守る中、仮橋を通る最後の電車が幸橋を通過します。それ以降の上り(武生新行き)2便、下り(田原町行き)3便は、すでに周辺の道路が閉鎖されているため、上りはバス代行(田原町～花堂)、下りはタクシー代行(福井新～田原町)となりました。



仮橋を最終で通過する福鉄電車(27日)



福井駅前電停近くに停車する代行バス(27日)



福井新駅に停車する代行タクシー(27日)



幸橋を北上する福鉄電車(28日:右側は仮橋軌道跡)

翌日から電車は幸橋の真ん中を通行できるようになりました。また、橋の架け替えが完了したことを記念した電車の運行や、記念切符の販売などもありました。

仮橋での通行は、フェニックス通りの車の流れと動線が重なってしまうため2度の信号待ちをしなければならず、正常ダイヤからの遅延が発生する原因となっていました。そのため、えちぜん鉄道との相互乗り入れ構想の支障にもなっていました。工事完了でその障壁は取り除かれたこととなります。経営悪化が浮上して存続の議論が沸き起こっている福鉄ですが、幸橋架け替え工事完了が文字通り「幸い」になり、福井市・丹南・坂井あわら地区の公共交通の利便性向上になることを願ってやみません。

福井鉄道の経営問題について

福井鉄道の経営問題は、国の会計制度変更による減損会計により9億7000万円の減損損益を出し、累積債務が30億円となったことにより福井鉄道単独での鉄道存続が困難となったというものです。規制緩和により、ドル箱の観光バスの利益で内部補助を行うことが困難になったという側面もあります。福井鉄道では、鉄道部門は昭和38年以来、黒字を計上できず、観光バス部門、不動産部門から赤字を補填してきました。現在、県・沿線3市から固定資産税の減免を中心に年間4000万円の支援を受けていますが。昨年11月、福井鉄道が沿線3市・議会に支援の拡大を要請しました。それに対して県は、「そのためには福鉄自らの経営改善の方針が必要」としましたが、福鉄は自らの計画作成は困難と判断。県と沿線3市に対し、官民の協議会を設け、経営再建計画を作成するよう要請。県は、改めて累積債務の処理・再建方針の提出を求めました。そしてさらに、西川知事は、「沿線自治体と住民の強い意欲がなければ存続できない」と、沿線の熱意を存続の条件に挙げました。

結果、福井鉄道は再建方針を作成。去る11月2日、福武線の存続について議論する第1回の協議会が、福井鉄道、筆頭株主の名古屋鉄道、沿線の福井、越前、鯖江3市などが参加して開催され、そこで福井鉄道側より3つの経営再建案が示されました。

1. 新会社を設立、鉄道事業を福井鉄道から切り離し、固定資産を新会社に売却する。鉄道部門の従業員は新会社に移管する。名古屋鉄道は県内の鉄道事業から撤退する。
2. 名古屋鉄道が福井鉄道の借入金などの債務の一部を肩代わりし、名古屋鉄道が保有している福井鉄道の株式を第三者へ譲渡する。名古屋鉄道は県内から撤退する。
3. 名古屋鉄道への割り当てにより、福井鉄道が増資を行って経営改善を実施する。その後、名古屋鉄道保有の株式を第三者に譲渡する。名古屋鉄道は県内から撤退する。

県ではこれらの3案を持ち帰り、現在、検討を進めている模様です。京福電車の運行停止時、並行する道路に予想外の渋滞が発生しましたが、三国芦原線の一日の輸送人員は4,700人、福武線は4,500人と同程度輸送しています。福武線は北陸本線との関係から不要論を主張する人もいますが、上記のような情報の提供が非常に重要です。ROBAでは、少し前から、資料を持って福鉄沿線の自治会連合会の会長さんを訪問し、福鉄問題に対する理解と対応をお願いしてきました。それらの自治会連合会は、現在、福井市と連携して福武線の利用促進を行う団体を設立したり、加盟自治体・関係団体・福井鉄道を呼んで公聴会をおこなうなどの活動を展開したりしているようです。

また、10月23日と31日、鯖江市内において、連合、県議、3市市議、越前市や鯖江市の区長会長、老人会、福井鉄道社員等の参加する福井鉄道問題の勉強会が開催され、ROBAのメンバーも情報提供者として参加してきました。勉強会では、LRT化等、将来価値の認識の重要性や、住民の乗る意識の醸成によって地域の鉄道を地域が一体となって支える必要がある旨、乗る仕組みづくりを行う必要性等、お伝えしてきました。

さらに、ROBAでは利用促進や啓発活動について今枝常務と意見交換し、乗車イベントや利用促進についてメンバーから募集したアイデアを選抜・編集したものを提出しました。それに対しては、福井鉄道の若手の職員の方から、「今後、ROBAのメンバーと福鉄職員でサービス改善や利用促進について議論する会合を持ってないか。」との申し出も頂いています。

これまで、厳しい経営環境の中、コスト削減に努めてきた福井鉄道ですが、新駅設置やサービス改善の経営努力は果たして十分だったか、との指摘がなされています。福武線を運営する新しい枠組みを一日も早く定め、再生の道を歩んで欲しいと思います。（文・清水）

～坂川市長たいへんお疲れ様でした～

坂川市長辞職の報を聞いたとき、一瞬耳を疑いました。元気な姿でまた市長として戻っていただけるものと思っていましたから……。残念で仕方がありません。

もちろん、いちばん残念に思っているのは坂川市長御自身でありましょう。新市長となられて以降、病気で苦しみながらも着実にマニフェストを遂行してきたところなのに、志半ばで市長職を去らなければならないという苦渋の選択をしたわけですから。

ROBA としては、坂川市長とスクラムを組んで色々な事業をすることができるのを楽しみにしていましたが、坂川市長が辞職されましても、坂川市長の目指したまちづくりを ROBA が先頭に立って今後も実践していきますので、一日も早く病気を治されましてまた元気な姿を見せてください。そして、これまでのように公共交通とまちづくりについて、LRT について議論しましょう。

坂川市長、大変お疲れ様でした。
そして、ご指導ありがとうございました。

平成 19 年 11 月

ROBA 会長 内田桂嗣

作 / 漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「今回の編集は塚谷さんをお願いしました」

塚谷(副編集長)

「220円で代行タクシーに乗れました」

清水(臨時編集員)

「久々、臨時の登場です」

内田(発行責任者)

「福武線、“雨降って地固まる”としないかね。」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail : roba@mbh.nifty.com

URL : <http://roba.cocolog.nifty.com/roba/home/>